

事務事業名		菅谷たたら山内管理事業		所属部	吉田総合センター	所属課	自治振興課	
総合計画体系	政策名	(IV)ふるさとを学び育つまち《教育・文化》		所属G	自治振興グループ	課長名	和泉博之	
	施策名	(32)地域文化の振興		担当者名	大谷美里	電話番号	72-0211 (内線) 4415	
	目的: 対象	市民	意図	文化芸術を普及・振興し、地域文化(地域の伝統文化・歴史遺産)を次世代に伝える。				
	基本事業名	(096)地域文化の保存継承		予算科目	会計 015001 款 15001 目 1015	大事業名	社会教育施設管理事業	
目的: 対象	市民	意図	地域文化を次世代に伝える。				中事業名	菅谷たたら山内管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16年度～)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	・指定管理業務 ・施設修繕

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	30年度実績(30年度に行った主な活動) 指定管理業務、施設修繕、文化財保存修理 工事に伴う受付移転	元年度計画(元年度に計画する主な活動) 指定管理業務、施設修繕			
	H30年度より予算科目を款50教育費一項25 社会教育費一目10社会教育施設費へ変更					
② 活動指標		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
ア	指定管理施設運営に関する協議回数	回	6	6	6	6
イ	施設修繕箇所数	箇所	1	1	2	3
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	市民、指定管理者	③ 対象指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	・市内外の方や次世代を担う小中学生が多く体感し、たたら製鉄等について理解を深める。 ・指定管理団体が自主事業を行う等展示や説明方法を工夫し、地域文化や歴史を小中学生も理解しやすい説明を行う。	④ 成果指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
		ア	施設入館者数	人	9,254	11,513	8,943	9,500
		イ	小中学生の入館者数	人	-	426	455	440
	ウ	指定管理団体の自主事業件数	件	-	3	3	3	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (30年度決算)	② コストの推移	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(計画)
需用費(施設修繕費) 262千円	財源内訳	国庫支出金	千円			
委託料(指定管理料) 9,910千円		県支出金	千円			
手数料(電話移転) 9千円		地方債	千円			
計 10,181千円		その他	千円			
		一般財源	千円	11,221	11,097	10,181
修繕は小規模修繕でも対応	事業費計(A)	千円	11,221	11,097	10,181	10,187
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2
		延べ業務時間	時間	50	50	50
		人件費計(B)	千円	198	204	217
	トータルコスト(A)+(B)	千円	11,419	11,301	10,398	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・各施設が文化財保存修理工事により順次修繕が行われ、H30より三軒長屋に着手されている。 ・菅谷たたら山内がJRの豪華寝台列車「瑞風」の立ち寄り決定、及び日本遺産認定により観光地として注目を集め、その効果により一時的に入館者数が増えた。 ・尾道松江線の全線開通により、山陽、四国方面の入館者が増えつつあるが、平成30年度に大雨による災害が発生し、入館者数が落ち込んだ。	・実績や市方針に基づき指定管理料の適正化・効率化を図った。 ・平成29年度指定管理料の見直しを行った。	・文化財の保存修繕を通じて市民の関心が高まっている。 ・平成28年度の日本遺産認定、また平成29年度よりJRの豪華寝台列車「瑞風」/バスの菅谷たたら山内への立ち寄り観光地が始まったことにより観光地としての魅力向上に向けた施設の利便性、機能の充実が望まれている。 ・大鋼場の老朽化が顕著で、景観がよくないと言われている。

事務事業名	菅谷たたら山内管理事業	所属部	吉田総合センター	所属課	自治振興課
-------	-------------	-----	----------	-----	-------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由 菅谷たたら山内は貴重な文化遺産であり、保存修理に伴い、今後、来訪者の増加が見込まれる。地域資源としてさらに磨きをかけることで、雲南市の交流人口拡大や特色あるまちづくりに寄与する。そのためには、各施設の機能拡充や関係団体との連携強化が必要。		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？			
D 公平性	<input type="checkbox"/> 影響無	理由 地域文化やたたら製鉄に関する歴史遺産を展示公開し、政策に直結している。施設と関連する事業は雲南市ブランドとしての情報発信や交流人口の拡大、地域文化振興及びふるさと学習等に寄与している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	理由 当地ならではの地勢、歴史、文化等を背景とした施設管理運営、施設を活用した自主事業が展開されている。		
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる			
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない			
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)			
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 指定管理料については適正な事業費である。来館者数の増加により平成30年度より指定管理料が下がっている。施設修繕については、老朽化に伴う修繕箇所、修繕費も増加しており、同事業費の増加が見込まれる。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？				
D 公平性	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 指定管理団体との協議や、文化財施設に関する教育委員会、関係団体、個人(土地所有者)との調整も必要であり、一定の業務時間は必要。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？			
D 公平性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由 指定管理等を通じて、市内外の住民、及び関連する団体、組織等を対象とした幅広い事業が展開されており、公平性は適切である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
	① 1次評価者としての評価結果			
評価 の 総 括	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 施設の経年変化や老朽化への対応は、破損や影響が顕著なものから優先順位を付け、対応している。今後も指定管理者と行政が連携をして、共通の認識により対応することが重要。施設に関する利活用策については、より一層の関係者・団体等連携の下、進展を図る必要がある。
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上	●																	
	維持		×																
	低下	×	×																
<p>現在、国指定文化財である菅谷たたら山内への関心は高まっている。平成26年度には、菅谷たたら山内の最重要施設である、菅谷高殿の保存修理工事が完了。また、元小屋の修理も平成29年度末に完了。さらに、高速道路尾道松江線全線開通、トワイライトエクスプレス「瑞風」の立ち寄り等により、観光地としてもその魅力と知名度が向上しているが、昨今の大雨で山陽・四国地方が甚大な被害を受けた影響もあり、H30年度は入館者数が減少した。</p> <p>市は、引き続き施設の機能維持に努め、指定管理者は、各種団体や住民団体等との連携強化により効果的な情報発信や各施設の展示内容・イベント・ガイドの充実を図る必要がある。</p>	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		